科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号: 13101 研究種目: 基盤研究(C) 研究期間: 2012~2014

課題番号: 24591156

研究課題名(和文)肺癌分子標的治療における新たな効果予測因子、治療ターゲットの探索

研究課題名(英文) Search of the effect predictive factor in molecules target therapy for lung cancer

研究代表者

吉澤 弘久 (YOSHIZAWA, Hirohisa)

新潟大学・医歯学総合病院・特任教授

研究者番号:50282984

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文): 感受性EGFR遺伝子変異陽性の非小細胞肺癌患者でEGFR-TKIによる初回治療例を対象として、各種免疫学的パラメーターについて測定した。腫瘍 退縮時にはCD4 + CD25 + Foxp3 + Regulatory T細胞の末梢血中の出現頻度が低下する傾向を認めた。MDSCsの解析、各種液性因子では 一定の傾向は認めなかった。本研究を推進中にEGFR-TKIに対する腫瘍の抵抗性獲 得のメカニズムにCD4+ CD25+ Foxp3+Regulatory T細胞がかかわること、その背景にDDX3 Xの関与を明らかとしてPLoS One, 2014. 9(10): p. e111019に報告した。

研究成果の概要(英文): Several immunologic parameters in patients with positive EGFR-mutation NSCLC during initial EGFR-TKI treatment were measured. The tendency that decreased frequency in the peripheral blood of the CD4+ CD25+ Foxp3+Regulatory T cell during tumor regression was found. In contrast, analysis of MDSCs or various humoral factors showed no particular tendency. During the series of experiments, we found that DDX3X expression and CD4+ CD25+ Foxp3+ Regulatory T cell affecting acquisition of resistancy to TKI.

研究分野: 医歯薬学

キーワード: Lung cancer EGFR-TKI MDSCs Predictive factor

1.研究開始当初の背景

申請者らはこれまでに、EGFR-TKI に関しては 感受性 EGFR 遺伝子変異陽性の非小細胞肺癌 に対するゲフィチニブと標準化学療法の比 較 相試験で、ゲフィチニブが著しく無増悪 生存期間を延長させること、ゲフィチニブの 使用のタイミングや投与量と予後の関連に ついて報告した。化学療法による肺癌腫瘍量 の減少時に末梢血中 regulatory T 細胞比率 が大きく変化することや化学療法の宿主に 与える免疫偏向について示している。

2.研究の目的

日本人の非小細胞肺癌において、上皮成長 因子受容体(EGFR)遺伝子変異がある患者は 変異のない患者よりも、チロシンキナーゼ 阻害薬(EGFR-TKI)が極めて高い効果を示す。 この急激な腫瘍量の変化、腫瘍破壊産物の 腫瘍外放出により担癌宿主内の抗腫瘍免疫 応答に発生する免疫学的変化は、従来の化 学療法や手術療法とは大きく異なる。治療 そのものが免疫学的に直接影響を与えない ため、この研究ではこれまでに無い pure な系において、多くの免疫学的パラメータ の個々の担癌宿主における経時的変化を 精確に把握できる。また腫瘍量の減少時と 腫瘍再増大時におきる変化を比較し、その 差を明らかにすれば、腫瘍増大を促進する 因子や抑制する因子に関する検討が可能と なる。この研究では、各種細胞性免疫やサ イトカインに加え、特に血中の Myeloid-derived suppressor cells(MDSCs) にも注目し、このダイナミックで特異的な 免疫学的変化を詳細に解明、EGFR-TKIの効 果予測因子や予後因子を新たな側面から検 討し、さらには新たな抗体療法や免疫療法 のターゲットを探索するのがこの研究の目 的である。

3.研究の方法

(1)感受性 EGFR 遺伝子変異陽性の非小細胞肺癌患者で EGFR-TKI による初回治療例を対象として、治療開始前、最大効果時、再増大時の3点において、以下の免疫学的パラメーターについて末梢血を採血し測定する。各因子測定の variation 等を考慮し、100 例において解析する。

液性免疫(各種サイトカイン) 細胞性免疫、免疫担当細胞の解析、 各種免疫担当細胞の解析、 Myeloid-derived suppressor cells(MDSCs)の単離、機能解析。(2)上記パラメーターと各患者における臨床効果との比較検討

治療前後における各種パラメータの変動について、 最大治療効果、無増悪生存期間、全生存期間と各種パラメーターの相関上記に関連する効果予測、予後予測因子の選択、 免疫抑制性因子克服の戦略検討

4.研究成果

感受性EGFR遺伝子変異陽性の非小細胞肺癌患 者でEGFR-TKIによる初回治療例を対象として、 治療開始前、最大効果時、再増 大時の3点にお いて、免疫学的パラメーターについて測定し 液性免疫: IL-4、IL-6、IL-10、IL-12、 IL-17、VEGF、GM-CSF、TGF- についてELISA のアッセイ系の確立とvaridation 、これま でに報告してきた方法での測定値安定性の確 認、細胞性免疫:CD4+T細胞、CD8+T細胞、 Regulatory T細胞(CD4+ CD25+ Foxp3+)、NK 細胞、NKT細胞、 T細胞比率をフローサイ トメトリーにより検討するための抗体の選定 と測定値安定性の確認を行った。In vitroに おける 各種サイトカインにたいする反応性 の検討や特にNKT細胞では -galactosyl -ceramide(GalCel)等に対する反応性や機 能解析を検討した。本研究では感受性EGFR遺 伝子変異陽性の非小細胞肺癌患者でEGFR-TKI による初回治療例を対象として、治療開始前、 最大効果時、再増大時の3点において、免疫学 的パラメーターについて測定した。液性免 疫: IL -4、IL-6、IL-10、IL-12、IL-17、VEGF、 GM-CSF、TGF- についてELISAのアッセイ系で の測定値安定性の確認、細胞性疫:CD4T細胞、 CD8+T細胞、Regulatory T細胞(CD4+ CD25+ Foxp3+)、NK細胞、NKT細胞、 T細胞比率を フローサイトメトリーで検討した。 腫瘍 退縮 時にはCD4+ CD25+ Foxp3+Regulatory T細胞の 末梢血中の出現頻度が低下する傾向を認めた。 Myeloid-derived suppressor cells (MDSCs) の解析ではマグネチックビーズを用い、Gr 1highLy 6G+ Gr-1dimLy6G-群、さらに Gr-1dimLy6G-細胞群はLy-6Cの発現によりGr-1dimLy6ChighLy6G-、Gr-1dimLy6ClowLy6G-群 に単離後、それぞれの細胞群のT細胞増殖能 やRegulatory T細胞への影響を検討したが、 一定の傾向は認めなかった。各種液性因子に ついては一定の傾向を認めなかった。本研究 を推進中にEGFR-TKIに対する腫瘍の抵抗性獲 得のメカニズムCD4+CD25+Foxp3+Regulatory T細胞がかかわること、その背景にDDX3Xの関 明らかとしてPLoS One, 2014. 9(10): p.e11 1019に報告した。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

Sugawara, S., Yoshizawa, H., et al., (12 人中 5 番目)Randomized phase II study of concurrent versus sequential alternating gefitinib and chemotherapy in previously untreated non-small cell lung cancer with sensitive EGFR mutations: NEJ005/TCOG0902. Ann Oncol, 査読あり, 2015, In press.

Fukuhara, T., Yoshizawa, H., et al.,

(12 人中6番目)Factors associated with a poor response to gefitinib in the NEJ002 study: Smoking and the L858R mutation. Lung Cancer, 査読あり,88(2),2015,p. 181-6.

Nozaki, K., <u>Yoshizawa, H.,</u> et al., (10 人中 9 番目)DDX3X induces primary EGFR-TKI resistance based on intratumor heterogeneity in lung cancer cells harboring EGFR-activating mutations. PLoS One, 査読あり,9(10), 2014, p. e111019.

Koshio, J., <u>Yoshizawa, H.</u>, et al., (10人中9番目) DEAD/H (Asp-Glu-Ala-Asp/His) box polypeptide 3, X-linked is an immunogenic target of cancer stem cells. Cancer Immunol Immunother, 査読あり,62(10), 2013, p. 1619-28.

Ishikawa, D., <u>Yoshizawa, H.</u>, et al., (10 人中 9 番目) mTOR Inhibitors Control the Growth of EGFR Mutant Lung Cancer Even after Acquiring Resistance by HGF. PLOS one, 査読あり,8(5), 2013, p. e62104 1-8.

Oizumi, S., <u>Yoshizawa, H.,</u> et al., (12 人中 6 番目) Quality of Life with Gefitinib in Patients with EGFR-Mutated Non-Small Cell Lung Cancer: Quality of Life Analysis of North East Japan Study Group 002 Trial. Oncologist, 査読あり, 17(6), 2012, p. 863-70.

Inoue, A., Yoshizawa, H., et al., (12人中7番目) Updated overall survival results from a randomized phase III trial comparing gefitinib with carboplatin-paclitaxel for chemo-naive non-small cell lung cancer with sensitive EGFR gene mutations (NEJ002). Ann Oncol, 査読あり, 24(1), 2012, p. 54-9.

Ichikawa, K., <u>Yoshizawa, H.,</u> et al., (10 人 中 9 番 目) Epitope diversification driven by non-tumor epitope-specific Th1 and Th17 mediates potent antitumor reactivity. Vaccine, 査読あり, 30(43), 2012, p. 6190-7.

Baba, J., <u>Yoshizawa, H.,</u> et al., (10人中8番目) Depletion of radioresistant regulatory T cells enhances antitumor immunity during recovery from lymphopenia. Blood, 査読あり,

120(12), 2012, p. 2417-27.

[学会発表](計 3 件)

Nozaki K, Kagamu H, Yoshizawa H. et al. DEAD/H (Asp-Glu-Ala-Asp/His) box polypeptide 3, X-linked plays an oncogenic roles to induce cancer stem cell-like properties, 2012 ESMO Congress、2012年9月28日、ウイーン、オーストリア

Watanabe S, Yoshizawa H. et al. Gefitinib for non-small cell lung cancer (NSCLC) with minor EGFR mutations: A retrospective study from the North East Japan Study Group (NEJ), 2012 ESMO Congress、2012年9月28日、ウィーン、オーストリア

Oizumi S , Yoshizawa H. et al. Rondomized phase II study of concurrent gefitinib plus chemotherapy versus alteration of gefitinib and chemotherapy in previously untreated non small cell lung cancer with sensitive EGFR- mutations:NEJ 005/TCOG 0902 ,2012 ESMO Congress、2012年9月29日、ウイーン、オーストリア

[図書](計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕 ホームページ等

6.研究組織

(1)研究代表者

吉澤 弘久 (Yoshizawa, Hirohisa)

新潟大学・医歯学総合病院・特任教授 研究者番号:50282984

(2)研究分担者

渡部 聡 (Watanabe, Satoshi) 新潟大学・医歯学総合病院・特任助教 研究者番号: 50529740

研究分担者

中田 光 (Nakata, Koh) 新潟大学・医歯学総合病院・教授 研究者番号: 80207802

(3)連携研究者

なし